

学年だより



釜ヶ淵小学校 第6学年
令和2年10月6日

朝夕と、肌寒い季節になりました。稲が黄金色に染まり、その上をトンボが飛ぶ姿から、秋が本番に近づいてきたことを感じます。さて、9月は、「楽しさアップ絆もアップ集会」がありました。2学期に入ってから、この日のためにみんなで力を合わせて全力で頑張ってきました。集会をしたことよりも、その頑張ってきた取組が、残りの学校生活をより色濃いものにしてくれるような気がします。10月8日で、「卒業まで残り100日」になります。卒業の日に「苦しいこともあったけど、最高の小学校生活だった」といえるような毎日を送りたいです。



みんなの力で、命を救う

救命救急講座



9月29日は、救急救命講座がありました。立山消防署から佐伯さんをお招きし、心肺蘇生法やAEDの使い方を教えていただきました。まず始めにクイズがありました。「救急車を呼んでから、現場に消防士が到着するまでの時間は、平均で何分でしょう」という問いに子供たちのほとんどの解答は、10分でしたが、正解は、7分でした。思った以上に早いことに驚く子供たちでしたが、「心停止してから3分で死亡率が50%も高くなること」を知り、7分間の中で自分たちが救命救急をする必要性を感じたようでした。



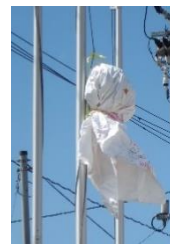
実際に、心臓マッサージをする体験もしました。心臓マッサージは、心臓に対して、垂直に腕をたて、1秒間に100回～120回のペースで押し続けます。7分間心臓マッサージを続けることは難しいので、2分間連続にチャレンジしました。子供たちは、1分経ったあたりから息が上がり、終わったときには、ひっくり返っていました。命を救うには、心臓マッサージを交代する人が必要だと痛感していました。



他にも、救急車を呼ばなければいけないこと、必要であれば、AEDを使わなければいけないこと等も教えていただきました。

一人の命を救うためには、みんなと協力することが大切なのだと学んだ1時間になりました。

～一致団結・ONETEAM～



9月19日は、「楽しさアップ絆もアップ集会」でした。PTAの方が朝早くからグラウンドの水をとってくださったおかげで、予定通り開催できました。何よりも、前日の大雨が嘘のように、晴天に恵まれたことに感動しました。きっと前日に作った、特大のてるてる坊主のおかげでしょう。当日は、国旗掲揚塔から、がんばる渚水っ子を笑顔で見ているように思います。

さて、楽しさアップ絆もアップ集会を終えた6年生の日記には、たくさんの思いが詰まっていた。きっと、特別な思いでこの集会に臨んだのだと思います。子供たちの日記の一部を紹介します。

ぼくは、エールでみんなにいろんな思いを伝えることができたと思います。僕たちがエールを送っている時、下学年のみんなが真剣に見てくれていました。その顔を見ると、やる気がわいてきて、今までの練習よりも大きな声を出せました。

N・S



集会当日、私の「渚水の呼吸」への思いは、練習の時と違いました。赤団のみんなと力を合わせて、青団には絶対に勝つという思いで挑みました。結果は負けましたが、なぜだかとても楽しかったです。多分、今までがんばってきたから達成感の方が大きかったのだと思いました。



赤団のエールは、言葉や順番、タイミングなどなかなか決まらず、僕を悩ませました。一通り両団のエールが決まってからは、合わせる練習で毎日が一瞬で終わったように感じました。けれど、それをみんなで乗り越えたことは、ぼくにとってとても良い経験になりました。

今日までぼくたちは、何度も何度もぶつかって、話し合いを繰り返してきました。もっとできることはないかと全力を尽くしてきたから、ぼくたちのエールは、クオリティーの高いものになり、大きな達成感を味わいました。だから、今の5年生にも来年の運動会で、この達成感を味わってもらいたいと思いました。

今年は、みんなで応援することはできませんが、釜ヶ渚に感謝を伝えること、下学年に全力を出してほしいという思いを伝えることを目標に、休み時間や放課後の時間を使ってエールを考えてきました。エールをしてからのみんなの盛り上がり、運動会の時のようだったので、きっと思いが伝わったのだと思いました。6年間で最高の集会になりました。

T・A

ぼくが学校に着くと、グラウンドにはスポンジをもった地域の方がいて、地道にグラウンドの水を吸い取り、走りやすくしてくださっていました。僕もすぐに手伝いに行きました。集会では、この感謝の思いをエールにのせました。僕の声にたくさんの人が驚いてくれて、思いが伝わったのだと嬉しく思いました。



私が運動会で学んだことは、自分の行動や声、表情でみんながONETEAMになるということです。マスクをしていてもできる限りの声を出したり、姿勢だけでなく顔もキリッとさせてみたりすると、みんなが落ち着いて競技に挑むことができました。これからも、自分の行動で絆を深めていきたいです。

私は、一つ一つの競技に思いがあるので、出場するたびにドキドキしました。たくさんの思いが詰まった勝負の結果は負けでした。悔しくて涙が出そうになったけれど、仲間の顔をみると不思議と笑顔になりました。最高の仲間と最高の集会ができてうれしかったです。